

わたらしい生き方を選択するためのワークショップ事業（交流会） の報告について

1 要旨・目的

「わたらしい生き方応援プランひろしま」に基づき、性別にかかわらず、人生のステージに応じた様々な働き方、学び方、生き方を実現する人が増えることを目指して、令和3年度にエソール広島と連携実施したワークショップ事業（交流会）について報告する。

2 現状・背景

<昨年度からの流れ>

ワークショップ（参加型講座）（令和3年9月、10月）

↓
若い世代を対象に、性別に係る固定観念への違和感や課題解決策について意見交換を実施。

交流会（令和3年12月～令和4年3月）

↓
参加型講座において参加者から出された意見等を基にテーマを設定し、ゲストスピーカーを招いて、課題解決のためのアイデアについて意見交換を実施。

<令和4年度の事業展開>

課題解決に向けた展開（ゼミナール形式）

交流会で出された、課題解決に向けた意見やアイデアを実現するために、ゼミナール形式のワークショップと実践活動を実施する。

3 概要

(1) 実施主体

広島県（委託先：公益財団法人 広島県男女共同参画財団）

(2) 実施日程、内容、参加者等

回次	実施日程及び方法	テーマ	ゲストスピーカー 〔ファシリテーター〕	参加者
第1回	令和3.12.22（水） 18：30～20：00	男女によって偏りのある職種について考える ～アスリートとして活躍する女性の「わたらしい生き方」～	野々村 聡子 （広島県・中国四国女子野球アンバサダー、元女子プロ野球選手） 大須賀 あい （編集者・ライター）	15名
第2回	令和4.1.30（日） 14：00～16：00	ちょっとどうなん？就活事情（就活などにおける身なりの問題から考える、性別による外見への固定観念）	栞 暁雨（らん しょうう） （中国新聞社 報道センター記者） 丸山 法子 （（一社）リエゾン地域福祉研究所代表理事）	14名
第3回	令和4.2.19（土） 10：00～12：00	女性の活躍と現状 ～わたらしく働ける社会を考えるリアルトーク～	嶋治 美帆子 （広島電鉄（株）経営管理本部総務部長） 藤原 輝 （（株）ワーキンエージェント取締役）	38名

回次	実施日程及び方法	テーマ	ゲストスピーカー 〔ファシリテーター〕	参加者
第4回	令和4.3.14(月) 18:30~20:00	家族と自分らしい生き方	森田 ひとみ (Morita キャリアプランニング代表) 丸山 法子 ((一社) リエゾン地域福祉研究所代表理事)	13名
	内容	<p>(要旨) ゲストスピーカーからは、結婚の形態の変化や、自分らしいライフプランなどの話があり、それを基に、参加者同士のグループワークでは、家族に関して、日頃感じている違和感や課題などを出し合い、その課題を解消するためのアイデアなどについて意見交換した。</p> <p>(意見交換の主な内容)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分自身の思いを家族に理解してもらうために、色々な価値観があるということを知る必要がある。また、単に意見や価値観を聞くだけでなく、自分の意志を持ちながら聞くことで、他者の意見と比較できる。 ・お互いを理解するために、家族会議の時間を設けると良い。 ・自分自身が、将来どのように生きていきたいかを考えることが必要。また、自分が生きる姿を思い描きながら進んでいくと良い。 <p>(ゲストスピーカーとファシリテーターの感想)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分らしい生き方をするためには、自分の理想を掲げることが大事だと感じた。皆さんの意見を聞いて、明るい希望を持つことができた。 ・世の中には、沢山の選択肢があるということを改めて感じた。わたらしい生き方を選択するためには、自分自身が納得することが大事だと思う。 		

(3) 実施場所

第1回：エソール広島研修室

第2～4回：ZOOMによるオンライン開催（エソール広島から配信）

(4) 令和3年度事業のまとめ

令和3年度の事業では、参加型講座や交流会を通じて、参加者が、性別による固定観念に関する違和感や課題等について考え、意見を出し合い、共有することができた。

また、「わたらしい働き方や暮らし方」を実現するための様々な意見が出たことから、今後は、様々な課題を解消するためのアイデアを出した後、実践に移して参加者の自主的・自立的な活動につなげていく。

4 今後の実施予定

令和3年度の交流会で出された課題解決に向けた意見などを実現するため、令和4年度は、まず、性別に係る固定観念について理解するためのキックオフイベントを開催する。

その後、少人数によるゼミナール形式のワークショップを実施して、アイデアの具現化に向けて、ブラッシュアップしながら企画し、実践に移すこととする。